

# Discover My Dream 夢発見!

前の号で触れたドリームプロジェクトは夏季休業中にも行われます。1年次生が「夢の発見」、2年次生が「夢の育み」、3年次生が「夢の実現」です。

1年次生は、夏季休業中に「職業人インタビュー」に出かけます。事前にアポをとって、事前学習で質問等も検討し、プロの方にインタビューをし、自分自身に興味を持っている職業に対する理解をさらに深めます。

2年次生は、見つけた夢に近づくためオープンキャンパスやインターンシップに参加します。実際にキャンパスを歩き、授業を見学し、教授や在校生と交流し自分の進学先を肌で感じます。インターンシップでは、介護・看護・保育などの現場での仕事を体験し仕事への理解を深め経験を積みまます。

## 〈高大連携〉 政治行政 福祉 防災

本校では、大学と連携した質の高い学びで、将来自分の住む地域に貢献できる人材の育成を行っています。平成28年度には山梨県立大学と連携協定も結びました。



山梨県立大学と連携した授業では、地域に関する学びを深め、平成27年度には、身延町へ観光に関する政策提言を行いました。その提言をさらに具体化し、平成28年度には、“地元をPRした商品開発”や“インターネット活用した地域のPRの取り組み”を実現させてきました。また、常葉大学から年に数回講師を招き、防災教育も実施しています。特に防災サマーキャンプでは、非常食体験や地域の安全点検など深い学びを行います。家庭科の授業では身延山大学と連携し、パリアフリーや介護などの充実した実習を行っています。このような活動を通じて、主体性や協働性、問題解決能力、探究力などを育みながら地域に貢献できる人材を育成します。

3年次生は、就職希望者は就職公務員ガイダンスや講座を受講し、心構え・模擬面接を経験し、応募前職場見学に参加したりします。進学希望者は進学課外を受講して個々の実力の伸長を図り、休業中にも模擬試験を受験して全国単位での自分の位置を確認します。その結果をみて、次回への改善点を見つけます。

上記以外にも、登校学習会・宿泊学習会・夏季進学課外などを通じてスキルアップをしています。

このように多岐にわたる夏の間の学習を経て秋以降のドリームプロジェクトにつながっていきます。

## 〈中高連携〉

本校では、「生徒一人一人の進路実現を目指して」をキャッチフレーズに、中学校と高等学校の6年間を通して、確かな学力と豊かな人間性を育み、地域と協働してキャリア教育を進めることで、「次代を担う人材」の育成を目指しています。通年事業の授業アシストでは、本校の教員が中学校の数学の授業に週2回訪れティーム・ティーチングを実施したり、中学校の先生方が本校1年生の数学・英語の授業に週1回来ていただいたりすることで、「学習意欲の向上」と「基礎学力の定着」を目的とした相互の学習支援を行っています。

他にも高校受験対策学習会の「サマーセミナー」や南海トラフ巨大災害を想定した防災学習を行う「防災サマーキャンプ」など、様々な活動を通じて身延高校・身延中学校・南部中学校の三校で、「学力の向上」「豊かな人間性の育成」「地域との協働」の3つの教育目標を柱として連携を図りながら、地域への理解を深め、社会形成に主体的に貢献できる力の育成を目指しています。



今年度の防災サマーキャンプの様子

## 校長の



第2号は、「学校生活充実号」と銘打って、身高祭、高校野球、インターハイ、中高・高大連携事業を中心にお伝えします。

今年の身高祭のテーマは、「スタンドアップ～新たな挑戦～」でした。時代が大きく変わる予兆を生徒諸君も皆感じているのだと改めて思いました。そしてその時代の変化に背を向けず、立ち向かっていこうという姿勢が感じられるテーマでしたし、3日間にわたるブロック・クラス・文化部の発表、展示のそこかしこに身高生のその気概・エネルギーが感じられる素晴らしい学園祭でした。

「先の敗戦や大規模自然災害から立ち上がってくるその日本の底力は、識字率の高さにある。おそらく世界一であり、日本の財産になる。」とは県立図書館館長 阿刀田高(あとうたか)の言葉です。昨年度から本校は、生徒全員が必ず図書館から本を借りる「不読率ゼロ」の取り組みを始めました。昨年度の生徒一人当たりの貸出冊数は、県下の高校において一昨年度の7位から5位へとランクアップしました。

今後20年で今ある職業の半分近くが機械に取って代われ、「2045年」にはAI(人工知能)が人間の能力を超えてし

まうとも言われています。そんな中で人間が主体的に生き活きと活動できる領域はどこでしょうか。共鳴・共感・感動の感受性・情緒に関わる領域がその一つであることは間違いないでしょう。

「資源のない日本で読書くらい役立つものはなく、養老保険のようなもの。若い頃から訓練して読書習慣を身に付けておけば、必ず利益が配分される。」とも阿刀田館長は言います。人生を豊かにし、日本の国力アップにも繋がるのが読書です。

夏休みが終わります。3年次生は、「夢の実現」に向けて待った無しの夏休み。今の自分と正対し、孤独感や焦燥感を抱えつつ、参考書や問題集に地道にコツコツと取り組んだことでしょうか。2年次生は、勉強も部活動も実力を付けていく「夢の育み」の、1年次生は、「夢の発見」へと繋がる学習習慣を確立する絶好の機会でした。

学校がスタートします。身高生は、それぞれの夢の実現に向け、反省と改善の上に新たなスタートを切ります。

# SHINKO 身高VIEW

Vol.2  
2017.September  
MINOBU  
HIGH SCHOOL

## 学生生活充実号



# 身高の輝く夏



## 最後の学園祭



遠藤麻衣 生徒会長(南部中)

6/28~6/30の3日間に及ぶ、生徒会最大行事が終わりました。今年は生徒会という立場になり、企画から運営まで様々な場面に携わらせて貰うことが出来ました。今までは考えたことがないことも、生徒目線に立って考えることで去年とはまた違った案が生徒会の中でもたくさんできました。しかし、意見が合わないこともあり、ぶつかることも多かったです。でも、1人ひとりが生徒のことを考えているからこそ本気で言い合い、本音で話し合えました。生徒会も身高祭を通して成長できた3日間だったと思います。本番は全部が全部完璧に出来たわけでは無かったけれど、ブロックをまとめてくれたブロック長をはじめ、夜遅くまでつき合わせていただいた先生方などたくさんの方々の支えがあったからこそ無事終わることが出来たと思います。本当にありがとうございました。



Aブロック Aブロック長 坂本涼馬(身延中)

「やるからには勝ちたい。Aブロックを優勝させたい。」後先考えず、ただただこの気持ちしかなかった。だから、優勝できず本当に悔しかったです。だけど、ブロック長をやったことに後悔はしていません。Bブロック長の田中元貴、Cブロック長の望月勝真とどうしたら盛り上げられるか、どうしたらみんなは楽しんでくれるか、そんなことばかり3人で考えていた気がします。2人とも自分にとってはライバルでしたが、2人とだったから楽しくできました。本当にありがとう。そして今まで先頭に立ってみんなを引っ張ることなんてしたことがなかった僕にブロック長を任せてくれたAブロックのみなさん、本当にありがとうございました。



Bブロック Bブロック長 田中元貴(神奈川県・相模中)

最後の学園祭ということもあり、今年はインパクトがあって生徒の思い出にしっかり残るようにしようとして各ブロック長と協力して様々な企画を考えました。準備期間が一番苦労しました。最初は「勝ちたい!」という感情でしたが、体育部門でトラブルが起こった時に「このままではまずい、みんなを楽しませなきゃ!」と思い、ブロック長などで話し合い冷静に対処することができました。色々ありましたが濃い時間で、大変だった分達成感がとても大きくなってよかったとつくづく思います。そして皆が「今年はいつものに増して楽しくて最高だった!」と言ってくれて私の気分も最高です!



Cブロック Cブロック長 望月勝真(身延中)

高校最後の学園祭、私はC組のブロック長を務めました。今年はブロック対抗という形式を大きく取り入れ、それぞれのブロックが学年の枠を超え、より一層団結力を深めました。そして、新しいことにも挑戦し、活気溢れる身高祭を目指しました。部活動や勉強などで忙しい時期でもあり、その中での取り組みは大変でしたが、その分やり遂げた後の達成感はとても大きかったと思います。また、ブロック長としても多くの方々からの協力を得て、力を出しきることが出来ました。この身高祭を成功させることが出来たのも、生徒会や学園祭実行委員の皆さん、先生方の支えのおかげだと強く感じます。来年もさらに盛り上げて、最高の身高祭を創ってください。

## Pick up!! student 文武両道を目指す!!



『仲間と共に挑むインターハイ』 柔道部、3年特進クラス 佐野歩夢(身延中)

私は小学校1年生から10年以上柔道を続けてきました。練習は体力的にも精神的にもとても厳しく、振り返ると、よくここまで続けてこれたなと思います。6月に行われたインターハイ山梨県予選では、優勝して全国インターハイへの出場を決めることができました。今までの努力が報われた瞬間でした。しかし、私が優勝できたのは自分一人の力だけではありません。毎日の厳しい練習に耐え、目標に向かい励まし合ってきた柔道部の仲間たちのおかげだと思っています。辛いことが多かった毎日ですが、高いレベルの柔道を一緒ににつくってきた仲間たちを心から尊敬し感謝しています。柔道部は、ひとことで言うところ「平和」そのもので、男子も女子もみんな仲が良く、本当にいい関係を築いてきました。私にとっては、練習後の仲間たちとのたわいのない語らいのひと時が、辛さや疲れを吹き飛ばし、次への活力を生み出してくれるいちばん楽しい時間でした。全国インターハイでは、そんな仲間たちとともに培ってきた精神力、技術、体力を全て出し切って結果を残したいと思っています。

# 僕らの輝ける場所がここにはある



野球部

## 『最後の夏』

野球部3年 阿部貴大(神奈川県・相模中)

私は3年前に身延高校野球部の試合を見た時にこのチームで甲子園を目指したいと心の底から思い、親元を離れ寮生活をしながら甲子園を目指す決意をしました。しかし入学当初はなかなか公式戦で勝てずに苦しむこともありました。その悔しさをバネに厳しい練習も、仲間と甲子園に行くんだという強い気持ちで乗り越えてきました。そして迎えた最後の夏の大会。初戦は甲府西高校を破り、2回戦は甲府商業でしたが、結果は9対8で負けてしまいました。負けるとは思っていませんでした。実感が湧いてきた時に思ったことは、全校応援を背中で受けながらプレー出来たこと、心の底から応援してくれた友達や先生方がいてくれて、本当に私達野球部は幸せ者だなと思うのと同時に、身延高校で野球が出来たことを誇りに思いました。この2年間半がこれからの人生において必ず大きな支えになると思います。野球部の応援をしていただいたみなさま本当にありがとうございました。



男子ソフトテニス部

## 『インターハイで得たもの』

男子ソフトテニス部3年 石部健一(南部中)

私は7月21日から7月24日までの福島県会津若松市で行われたインターハイに出場しました。そのインターハイは私にとって高校生活最初で最後のインターハイでした。会場に行ってみると、どの県の人ともとても強そうでした。1日目は練習でした。その練習では初めの方はとても緊張しましたが声を出して行くと徐々に緊張もほぐれて来て、いつの間にか楽しんでテニスができていました。2日目には開会式がありました。全国からの選りすぐりの選手がいて、私はすごく興奮しました。なぜならこんな人たちともしかしたら戦えるかもしれないと思ったからです。その後宿舎に帰ってからもずっとソフトテニスの動画を見ていました。3日目には試合があり試合前は緊張していたら、付き添いで来てもらっていた龍星に「健一楽しんでこいよ」という一言で、とても楽になりました。結果は負けてしまいました。ですがその負けによって私はさらに強くなりたいと思いました。まだ私には国民体育大会という大会があるのでその大会に出られるように日々努力していきたいと思っています。



陸上競技部

## 『次のステップへ』

陸上競技部3年 中田舞花(南部中)

私は7月30日に山形インターハイ陸上競技の部女子100mに出場しました。結果は予選が12秒23で組2着通過、準決勝は12秒40でした。悔しくも準決勝敗退という形となり、目標としていた決勝進出に駒を進めることができず、不甲斐ない結果となってしまいました。私は小学校6年生の頃から陸上を始め、今回のインターハイは1つの節目と位置付けて臨んだ大事な試合でした。これまでの集大成であり、これからの進路を決める為にも重要なレースがこの山形インターハイでした。かねてから、インターハイ入賞を目標として日々の練習に取り組んで来ました。練習はお世辞でも楽しい一色のもではなく、何度も何度も嫌になりくじけそうになりました。しかし、一緒に頑張ってくれる仲間や先生、応援してくれる家族や友人が居たから鍛錬に励むことができました。しかし、今回の結果は決して良いものとは言えません。まだ、関東選手権や国民体育大会という大きな大会が残っているので、その場で私の高校陸上生活の有終の美を飾るように、もう一度精進して行きたいです。



男子ソフトボール部

## 『最後のインターハイを終えて』

男子ソフトボール部3年 藤嶋駿輔(身延中)

私たち男子ソフトボール部は南東北インターハイに出場しました。関東大会では3位になり、目標である全国制覇に向け一生懸命練習してきた私たちにとっては集大成の大会でした。初戦は宮城県代表の白石工業と対戦しましたが惜しくも5対4で敗れてしまいました。最初から最後まで自分たちのペースで持ち込めたものあと一歩及びませんでした。僕はキャプテンとしてチームを引っ張ってきたつもりですが、いつもみんなに助けられてばかりで、この大会も最後の最後までみんなに迷惑をかけてしまいました。本当に悔しい気持ちでいっぱいです。しかし、この最高の舞台で仲間と一緒に楽しくソフトボールをできたことは最高の思い出であり、一生の宝物です。全国制覇はできませんでしたが、自分たちのソフトボールを買ったことは本当に良かったです。また、常に支えてくれた監督、保護者の方には感謝の気持ちでいっぱい입니다。この経験を糧にしてこれからの生活を過ごしていきたいです。

## 演劇部



『仲間』 演劇部3年 幡野るみ(身延中)

6月28日から30日にかけて学園祭がありました。その1日目に私たち演劇部は「修学旅行」という作品をやらせていただきました。1年生12人、2年生7人、3年生3人計22人という人数で一人一人がしっかり役割を果たし、無事に上演することができました。これまで演劇部は3人というとても少ない人数でやってきました。ですが、年を追うごとに、7人そして12人と増えてやっと部活らしい部活ができるようになり、とても嬉しく思いました。しかし、人数が増えて大変なことも多々ありました。うまくいかず苦しかったり、自分に何が出来るのか何度も考えたりしました。そして、顧問の先生と相談して考え合いました。また、仲間とも話し合い乗り越えてきました。大変なこともありましたが、仲間が増えたからこそ助け合えることもあり、何度も周りに支えられ助けられました。それは、やっぱりどんなことがあってもこの仲間だったからこそものごとと思えました。この3年間私は、顧問の先生をはじめ演劇部の仲間に出会い、そして一緒に部活が出来たことに感謝しています。